

われらひとしく丘に立ち

「あれ、太陽光発電じゃないか？」

「石巻市民病院があった場所だけど土盛りでしょうかね。上に掛けた防水シートが網目模様なのでは、自信のない生返事である。

問いかけたのは、大内秀明さん。東北大学名誉教授。仙台・羅須地人協会代表。最近は平凡社新書『ウィリアム・モリスのマルクス主義』が好評だった。「復興・協同」通信にもう10回以上執筆している。

石巻の日和山公園の上の、鹿島御児神社の鳥居の横にいる。ここは3年前、供え花で埋め尽くされ、被災者慰霊の丘になった。毎日のように有名芸能タレントやレポーターが押し掛け、ミニイベントやテレビ中継が続いた。

その端から一段下がった、といってもほんの数十歩のところ、地元産の稲井石に刻んだ詩碑がある。「われらひとしく丘に立ち」明治45年5月、宮沢賢治がここを訪れた。盛岡中学の修学旅行1日目である。一関から川汽船で北上川を下った。眼下に広がる太平洋、生れてはじめて見る海に、感動を「まぼろしとうつつとわかずなみがしら きほい寄せくるわだつみをみき」と詠んだ。この短歌を改作してできたのが文語詩の詩碑「われらひとしく丘に立ち」である。

現にもどる。二人並んで北上川河口を見ている。左手の岸は、石巻魚市場や関係の施設、復興なった事業所が軒を連ねる。それに比べ、眼下の右岸の方は、建物らしい建物が3つか4つ。震災前には確かにあった住居や商店の跡地、路地や事業所、そして公共施設などの痕跡が、まるで原稿用紙の升目のように広がっている。

マグニチュード9。国内では観測史上最大の東日本大震災。その震源に一番近い市街地の一つである。地震の激しい揺れ、黒い津波、火がついた浮遊物が引き起こす津波火災、それに地盤沈下。東日本大震災で起きた災禍のほとんど総てが、この地で苛烈を極めた。幼稚園送迎バスの悲劇もあった。7.2クタルの南浜地区だけで400人余りの犠牲者が出た。

震災の後、再び津波の襲来や高潮による浸水があるとして「災害危険地区」に指定された。建物の新築が出来ない。

ここに、国と宮城県、石巻市が共同で「復興祈念公園」をつくらうとしている。追悼、鎮魂、そして教訓の伝承の場。歴史的な大災禍だけに、こういう施設をつくることには賛成する。ただし高さ7.2メートルの堤防が海岸線に沿って長く伸びるので、この公園から海はまったく見えない。

私たち二人がいる日和山公園の鹿島御児神社前は50メートルほど高いので、賢治が感動した海が遠く水平線まで広がる。海の見える丘か、海岸堤防が視界を遮る「祈念公園」か。勝負は見えている。

待っていたタクシーで丘を下り、南浜地区を見た。津浪火災で焼けた門脇小学校は白いシートで覆わ

れ、焼け焦げた校舎を隠していた。何箇所かで車を降り写真を撮った。

そのまま石巻の中心部を回った。シャッターが下りた店舗そして建物を解体した更地が延々と連なる。

石巻専修大学2号館に戻ってきた。ワーカーズコープ「東北復興本部」3周年記念フォーラムの会場、午前中ここで基調講演を聞いた。

午後はシンポジウム形式。「被災地は非日常の派手なイベントはもういらないとっている。日常を取り戻すための地に足のついた支援がもっと欲しい」という発言が記憶に残った。

最後の来賓祝辞に立った、わが大内秀明代表。「大川小学校の悲劇。校庭に残った宮沢賢治の壁画と「雨ニモマケズ」の詩が我々へのメッセージ。雨にも負けず 風にも負けず そして震災にも負けず、皆で頑張ろうじゃないですか！」。

大会が立派に終わった時、ひとりの女性が話しかけてきた。「どうして『賢治とモリスの館』の話をしなかったのですか？」代表が私費で仙台市青葉区作並に建てた『賢治とモリスの館』今年で10年への足取りは、ここワーカーズコープ石巻にも、確実に熱烈なファンを生んでいた。

(この・ていいちろう 仙台・羅須地人協会運営委員)